

一昨年度・昨年度に続いて、「もう一つのセンター試験・漢文」を作成した。2年連続で作成したので、今年も作成しないといけないような気がした。日本のどこかに目に見えない読者がいて、3作目を待ち望んでいると想像してみた。架空の読者を想定することが励みになった。

本年度も一番工夫したのは選択肢の長さである。一種の「遊び」と受け取ってもらえれば幸いである。

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(設問の都合で、返り点・送り仮名を省いたところがある。)

胡子夜臥、有鼠。于案、其声磔磔然。胡子懼鼠、傷其書也。乃暗投杖。杖不能中鼠。鼠暫止而復作。遂命童子一起而逐之。鼠稍去。及童子就枕、鼠復噬不已。時狸奴乳別室。胡子度鼠之不能去也、於此是命童子取狸奴置臥内。由是向之磔磔者寂不聞矣。噫、人非人、不靈於鼠、制(甲)不於人而能於(乙)。非靈於人、鼠畏狸奴而不畏人。然則彼各有職也。君子居其職、亦尽其職而已矣。

(注) 1 胡子……この文章の筆者胡儼の自称。
 2 磔磔……鼠がかじる音。
 3 童子……召使いの少年。
 4 狸奴……猫の別称。
 5 臥内……寝室。

(胡儼『胡祭酒集』による)

- 問1 波線部 a「中」と同じ用法のものを、次のア～オの中から一つ選びなさい。
 ア 中等 イ 中国 ウ 中毒 エ 中心 オ 中秋
- 問2 波線部 b「遂」と同じ読みものを、次のア～オの中から一つ選びなさい。
 ア 即 イ 惟 ウ 径 エ 因 オ 終
- 問3 波線部 c「而已矣」の読みとして最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選びなさい。
 ア のみ イ かな ウ たり エ なり オ こと
- 問4 空欄甲～丙に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選びなさい。
 ア 甲：鼠 乙：鼠 丙：狸奴 イ 甲：鼠 乙：狸奴 丙：狸奴
 ウ 甲：狸奴 乙：鼠 丙：鼠 エ 甲：狸奴 乙：狸奴 丙：鼠
 オ 甲：狸奴 乙：鼠 丙：鼠
- 問5 傍線部 A の内容の説明として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選びなさい。
 ア 胡子が童子に指示をして、起きて鼠を追い払わせたこと。
 イ 胡子が立ち上がって童子に指示をして、鼠を追い払ったこと。
 ウ 胡子が鼠を追い払って、童子に寝るように指示したこと。
 エ 童子が鼠を追い払ったことを、胡子に後で報告したこと。
 オ 童子が鼠を追い払うのに失敗したことを、胡子が責めた。
- 問6 傍線部 B の書き下し文として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選びなさい。
 ア 童子に狸奴を取るを命じて臥内に置かしむ
 イ 童子に命じて臥内に置きて狸奴を取らしむ
 ウ 童子に命じて狸奴を取らしめて臥内に置く
 エ 童子に命じて狸奴を取りて臥内に置かしむ
 オ 童子に狸奴を取り臥内に置かしむるを命ず

問7 傍線部Cの意味として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選びなさい。

ア 猫や鼠は、人間にとつてそれぞれ役に立つ点が微妙に異なっているのだ。

イ 人には人の、猫には猫の、それぞれの能力や本分というものがあるのだ。

ウ 猫や鼠は、それぞれに互いの短所や長所を十分に知っているものである。

エ 人や鼠や猫は、それぞれ神から与えられた能力や任務が異なっているものだ。

オ 人や猫は、互いに相手より自分の方が優れている点をよく認識しているものだ。

問8 この文章の論の運びについて述べたものとして最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選びなさい。

ア 自分も召使いの少年もともに鼠を追い払うことができなかつた経験により、動物より賢いはずである人間の無力さというものをかみしめている。

イ 自分が猫に比べて鼠を追い払うときに役に立たなかつたという事実により、世の中の君子たちも自己の力を認識することの重要性を説いている。

ウ 自分は鼠を追い払うことができなかつたが猫が鼠を追い払った経験を参考に、人の世の君子はいかにあるべきかというふうに思いを致している。

エ 自分がさまざまに工夫してついに鼠を追い払ったことに基づき、君子も現在の地位に安住せず独自に創意工夫を

オ 自分の能力を猫や鼠と比較して子細に検討した結果、君子というには程遠いので自分の本分を守って少しでも世の中に役立ちたいと思っている。

解答 問1ウ 問2オ 問3ア 問4イ 問5ア 問6エ 問7イ 問8ウ

解説

「全体」

解答数は8問で、実際のセンター試験と同じ。得点率はおちるだろう。特に、問1、問2、問3、問5、等の漢文の知識を問う問題は正答率が低いことが予想される。実際のセンター試験にはこの種の問題が無かつたので、わざと作ってみた。2年連続して書き下し文や返り点の問題が出題されていない。今後も漢文特有の知識が余り必要のない出題が続くかどうかは

にわかには判断しがたいが、古文ではしつかりとした古文の知識を前提とした問題が作成されているようなので、漢文もそのような問題になると見る方が妥当だろう。いずれにしても本年度のような易しい出題がそう続くとは思えない。

「各問」

問1 漢字の用法の問題を設定した。返り点がついているので、動詞に用いていることが分かる。他の熟語で言えば「命中」や「的中」などの用法がある。センター試験ではルビがついていた。選択肢をじっくり見れば、知識として持っていないくても見分けることは可能。

問2 実際のセンター試験では読みが問題になっていた。ここではさらに一步踏み込んで、読みを知った上でその読みと同じ漢字を見抜く設問にした。同じ読みの語は他に、「卒」「竟」がある。

問3 文末の助字の読みの問題。「已」だけでも同じ読み。また、「耳」「爾」も同じように「のみ」と読む。それぞれの下に置き字「矣」をつけて「耳矣」「爾矣」としても読みは同じ。

問4 鼠と人と猫の三者の関係を読み取る。三者のどれがどれより「靈（賢くすぐれている）」であるか、どれがどれを「制」することができるか。まず、「制」する対象となるのは、「鼠」。がりがりやと囁る音がうるさいのをやめさせようと躍起になっているのだから、甲は「鼠」。「鼠」を制することは、人にはできなくて猫にできるのだから、乙は「狸奴」。人とどちらが「靈」であるかを比較するのは、鼠と人間は前に比べているから、丙は「狸奴」。

問5 「命童子」から始まる文が二つある。基本的に訓読の仕方は同じ。始めの方を意味を読み取る問題とした。「童子」に「命」ずるのが「胡子」で、「起」つのが「童子」であることを押さえれば正解は自ずと定まる。

問6 「命童子」から始まる文の二つ目。「SVOV」の形で下の「V」の行為の主体が「S」ではなく、「O」であるときに、下の「V」の送り仮名に「シム」がつく。ここでは「S」は「胡子」。上の「V」は「命」、「O」は「童子」、下の「V」が「取」と「置」の二つあって、「シム」がつくのは「置」のみ。

問7 「彼」は人間と猫を指す。鼠は登場してきてはいるが、いわば狂言回しの役なので「彼」の中には入らない。猫と人を比べると人の方が賢く優れているのだが、鼠を追い払うことは猫にはできないが人にはできるということから、人と猫にはそれぞれの能力本分があるということになる。

問8 「噫」の前後をそれぞれ吟味する。すなわち前半は、鼠を追い払おうと四苦八苦した事が書かれている。選択肢のA「工はいずれもそれなりにその夜のできごとを書いていて誤りではない。才はおかしい。後半の記述は、最後の一文が要するに結論である。選択肢を比較すると、誤答にはいずれも文中にそんなことは書かれていないという内容が含まれている。